

少人数授業における動画教材の活用と時間外学習の促進

特別支援教育講座・山下 光

(1) 授業の概要

大学院特別支援教育専攻特別支援学校教育専修の専門科目は受講者が5人以下の少人数になることが多い。昨年度は1名のみの受講だったため、英文を含む原著論文を使用した演習形式での授業としたが、本年度は5名の受講者があり、全員が内部進学言語聴覚士(ST)国家試験受験資格取得希望者であった。そこで、国家試験に必要な知識のレベルをふまえ、シラバスの授業計画にしたがった講義形式での授業を行った。授業の目的は、「発達障害、言語・聴覚の障害、重複障害等を対象とし、それらの認知・行動上の問題点とその原因となる脳の障害について考えること」であった。到達目標は、「発達障害や言語聴覚障害の原因や症状について、脳神経系の機能と関連づけて説明できるようになること」であった。

(2) 実際の授業の展開

授業時間は火曜5時限、受講生は大学院1年生の5名であった。全員が学部の時に基礎となる障害児医学や脳・神経系の解剖・生理の授業を受けていたが、その理解度には個人差が大きかった。

そこで理解を促すために、本年度は動画教材の使用頻度を増加させた。材料としては医学、看護学、特別支援教育に関する市販のDVD教材、録画したテレビ番組、インターネットで公開されている動画等を使用した。しかし、授業内容の理解には相当量の時間外学習(予習・復習)が必要と考え、以下の方策を実施した

(3) 時間外学習の促進

- ①授業プリント(パワーポイントのプリントアウト、追加の図表など)を事前配布し、予習を促した。
- ②授業の開始時に、クイズ形式のプレテストを実施(口頭試問)し、正解に関しては成績に加点することを伝えて復習を促した。
- ③プリントに授業内容に関連するHPや、動画のURLを紹介し視聴を勧奨した。
- ④関連書籍やDVD(心理学・神経学等について)の一般書、当事者や家族の手記、授業内容に関係した小説、コミックス、映画等を私費で購入して研究室に貸し出し用の文庫を作った。これらの

書籍は資料に参考書として挙げ、また授業にもできる限り持参し、読むことを勧めた。

授業でも、授業時間外の動画の視聴や関連書籍の読書の感想を述べさせ、それも加点の対象とした。また、学生にも授業理解につながるインターネット動画やHPを探させ紹介させた。中には教員も知らなかったものもあり、その場でインターネットにアクセスして視聴した。また、従来は携帯電話等を授業中に使用することを禁じていたが、今年度は資料調べ等に限ってスマートホンの使用を許可した。

理解度の評価と知識の定着を目的に、言語聴覚士、看護師、作業療法士等の国家試験から抜粋した小テストを单元ごとに実施した。

(4) 授業評価

最終回の授業で自由記述方式のアンケートを行った。①「内容に興味を持てたか」という質問には、5名全員が「興味を持てた」という趣旨の回答であった。②「理解しやすい授業であったか」という質問に対しては、「理解しやすかった」という趣旨の回答が2名、「難しく理解が不十分だった部分がある」という趣旨の回答が2名あった。③「資料や教材が適切だったか」という問いには、「適切であった」という趣旨の回答が3名あった。特に「動画教材を見て初めてその疾患や障害の実際を知った」という趣旨の回答が4名あった。また、「英語の動画は内容がわかりにくかった」という回答が1名あった。④「時間外学習への取り組み」については、2名が「3冊以上の関連図書を読んだ」と報告したが、2名は「1冊も読まなかった」と回答した。

(5) 反省点と総括

小テストの成績には大きな個人差があった。積極的にクイズに答えたり、書籍や動画の感想を報告した学生は、小テストの成績も高かった。本来は理解の個人差を小さくするために行った試みであったが、むしろ個人差を大きくしてしまった可能性がある。同じ資格の取得を目指していても、資格や仕事への意欲の面での差が、授業への参加態度の違いに表れるのかもしれない。